

松阪市議会

議長 西村 友志様

平成 29 年 5 月 22 日

楠谷 さゆり

### 視察報告書

今般、下記のとおり視察を実施いたしましたので、その内容等を報告します。

1. 視察の日程 平成 29 年 5 月 21 日（日）
2. 参加者 楠谷さゆり
3. 視察先 鳥羽市 「伊勢志摩バリアフリースペースセンター」
4. 目的 松阪市のこども発達総合支援センター「そだちの

丘」、健康センター「はるる」において、多目的トイレのドアの幅が狭い、点字ブロックが充実していない、駐車場の柱が車のミラーにあたる、などの苦情がある。そこで、「お伊勢さん菓子博」で実行委員として参画し大きな効果を上げたと評価の高い「伊勢志摩バリアフリースペースセンター

ー」で、バリアフリーの本質を学び、また、近鉄鳥羽駅構内トイレや鳥羽マルシェ内のトイレを視察する。さらに、松阪市の具体例について相談する。



## 記

### 1. 多目的トイレのドア有効幅の問題

「はるる」の多目的トイレのドアが全開で80cmしか開かず、これは国土交通省のバリアフリー法、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例に基

づいた円滑化基準の 80cm をクリアしているとは言え、円滑化誘導基準の 90cm は満たしていない。ドアは既製品には見えないため、大工がドア取手部分の 10cm をマイナスと考慮できなかった可能性もゼロではないが、元々図面上の有効開口を 80cm で指示を出している可能性が高い。改築ならともかく新築の場合、推奨されるのは円滑化誘導基準の 90cm であり、公共、民間を問わず 90cm を確保しているところが多い。

一度完成してしまうと対処できないことが多いため、図面の段階で障がい者に見てもらうか、いろいろな人の意見を聴く機会を設けることを推奨する。

## 2. 理想的な多目的トイレのために

オストメイト設置は増加してきたが、ユニバーサルシート（大人用おむつ交換ベッド）を備えているトイレはまだ少ない。しかしこのシートは、高齢者や重度障がいのある人に、今後需要が大きくなると思われる。スペースが広くなくてもシート（ベッド）は収納が可能であるため、車椅子トイレがあるスペースなら十分

設置が可能である。

\*以下、鳥羽マルシェ内 多目的トイレ



(オストメイトに、使いやすいように鏡とトイレットペーパーが付いている。シ

ャワーも温水が出る。)



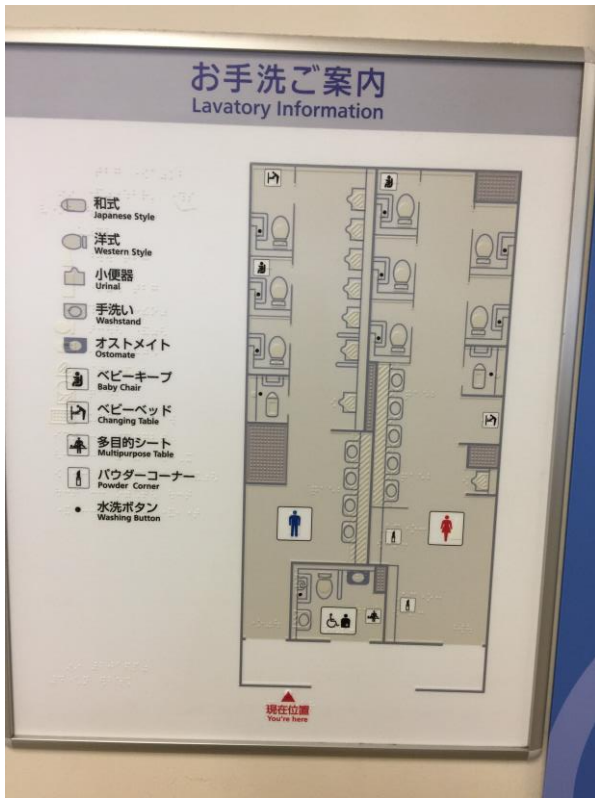
(ユニバーサルシートが収納してある状態)



(ユニバーサルシートを開いた状態)

### 3. 階段の終点に点字ブロックが不在である問題について

階段の一番下に点字ブロックが無いと危険であるため、点字ブロックはあるのが望ましいが、埋め込みタイプを後から追加するのは容易では無い。まず、建物の全体像がわかると安心できるので、触ってわかる（点字付き）平面図を設置する方法がある。しかしながら、そこまで点字ブロックで誘導するのが望ましい。



(点字付き平面図の例)



(平面図までの点字ブロックの例)

「はるる」においては、キッズコーナーが近くにあるので点字ブロックの設置が危険との判断であれば、視覚障がい者歩行誘導ソフトマット「歩導くん」も選択肢の一つである。



また、点字ブロックをコンシェルジュに向かえるよう設置する方法もある。

いろんな障がいの人がいるのが現実であるので、なるべく多くの人の意見を聞いて最後に集約することが大切である。

#### 4. 質疑応答

Q: 階段の下に点字ブロックが無いことに加えて、手すりが短すぎるとの意見があるが、どうか？

A: 人間は自分の体よりやや前の部分の手すりを持つのが普通であるので、一番下から少し、まっすぐな部分があるのが望ましい。ただし、下にいる人にその出っ張りが危険にならないか、十分に考慮して設置しなければならない。





Q: 松阪市では、本年度より地域の公民館のトイレを改修する予算が組まれている。男女別になっていない、和式しかない、という課題があるが、スペース的に余裕があるわけではない。どのような改修がベターであると思われるか。

A: 男女別の多目的トイレを造るのが無理であれば、男女別で一般のトイレを造るより、多目的トイレ一つの方が良い。公民館は高齢者の利用も多いが、防災の拠点であると考えられるようになってきたこともその理由である。

Q: 伊勢志摩バリアフリースターセンターでは、「三重県バリアフリー観光ガイド みえバリ」を発行しているが、松阪市内の観光スポットで気になるところはありますか。

A: 松阪城址内にある歴史民俗博物館。2階の展示室に貴重な展示が多いのに、車椅子で2階に行けるすべがない。

Q: 「そだちの丘」の身障者用駐車スペースで、ドアをいっぱい開けると、屋根を支える柱にぶつかるといった問題がある。こんな例はよくあるのか。

A: 駐車スペース横のゼブラ地帯は、ドアや乗り降りのスペースを示しているが、そこに柱やポールを立ててしまっている例はよくあり、残念なことである。

## 5.所感

伊勢志摩バリアフリースターセンターは、この地域におけるバリアフリーを推進、情報発信し、ノーマライゼーション文化の息づく観光地とすること、また、観光だけでなく、障害者や高齢者が健常者と共に暮らすノーマライゼーション社会に寄与することを目的としている NPO 法人である。すでに 15 年の経験があり、実際にバリアフリー調査を行って情報の発信をしていることで信頼を得ている。「バリアフリーは集客面で絶対にプラスになる」という考え方は、今後の松阪市の観光行政を考える上でも大きなヒントになり、市民にとっても、公衆トイレなどのバリアフリー化は全ての人に優しい住みやすいまちになると期待できるものである。

以上